日本キリスト教会　広島長東教会だより

ミ　ニ　バ　ラ　No.35

〒731-0135　広島市安佐南区長束 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2012 年 1 月発行

いざ、ベツレヘムへ

「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくれたその出来事を見ようではないか」。
（ルカによる福音書２章 15 節）

ベツレヘムの町にヨセフとマリアが来て、そこに留まっている間に、マリアはイエス様を出産しました。宿屋には彼らが入れる部屋がなく、やっと入れたところが家畜小屋でした。この家族のことを気にかけていた人などほとんど誰もいませんでした。同じころ、ベツレヘムの郊外で、羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていました。その時間、たいていの人は休んでいました。やはり羊飼いたちのことを気にかけていた人など誰もいませんでした。

羊飼いは昼も夜も羊を守るために働きます。動物が相手では休みの日はありません。羊飼いの仕事は誰かがやらなくてはならない大切な仕事ですが、そのような人が必ずしも社会で重んじられないのは昔も今も変わりありません。夜の闇があたりを覆いつつみました。彼らは孤独をかみしめていたことでしょう。しかし、この人たちに救い主誕生の知らせがもたらされたのです。

皆さんは何かとても素晴らしい、嬉しい出来事が起こったとしたら、そのことをまず誰に知らせますか。自分の一番大切に思っている人でしょう。神様はイエス様がお生まれになったとき、その知らせをまっ先に羊飼いたちにお告げになりました。それは、彼らこそ神様が愛してやまない人たちだったからです。

主の天使が現れて、羊飼いたちに民全体に与えられる大きな喜びを告げました。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」。ダビデの町とはベツレヘム、メシアとは救い主のことで、これを当時の公用語であったギリシア語に直すとキリストになります。クリスマスはこのキリストがお生まれになった日なのです。

天使の言葉が終わるやいなや、神を賛美す気味なほど静かだったのですが、これとは反る大合唱が始まりました。このとき地上は不対に天は喜びにわきかえっていたのです。

天使たちが去っていって再び静かになったとき、羊飼いたちは行動を開始しました。「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」。そうして、ベツレヘムの町に行って、天使が告げたとおり飼い葉桶に寝かせてある幼な子を探しあてたのです。

羊飼いたちは、自分たちが見ていることが天使の告げたことと全く同じであることを知って、幼な子イエス様を救い主と信じました。すると喜びを押さえることが出来なくなりました。あふれる喜びをどうしても人々に伝えたくなったのです。彼らはイエス様がおられるところを出ると、こんなふうに、まわりの人たちに話したのでしょう。「救い主がお生まれになったんだ。本当だよ。おれたちはこの目で見たんだ」と。

羊飼いたちを見ていると、まるで喜びにわきたつ天がその場所に移ってきたようではありませんか。ここに彼らの魂に変革が起こっていることがわかります。彼らのこの変わりようには驚かされます。これこそ「主が知らせてくださったその出来事」が家畜小屋にいる聖なる家族だけでなく、彼らの中にも始まったことを示しているのです。

もしも羊飼いたちが幼な子イエス様に会おうとしなかったら、会ったとしてもそれだけで満足して帰ってしまったなら、天使の出現もこれほど印象深く私たちの記憶に残ることはなかったでしょう。しかし、彼らは自分たちの見聞きしたことを語り、神をあがめ、賛美しました。後世の人たちは彼らの喜びの意味を理解することが出来ました。それは皆さんにも伝わっていることと思います。クリスマスの出来事は神から人に、そして人から人へと伝わってゆくのです。

羊飼いたちが幼な子イエス様を通して見たものを、私たちも見ることが出来ますように。

（2011 年 12 月 24 日の礼拝説教より）
牧師　井上　豊